

2 原子力発電の貢献

原子力発電は、発電の際に二酸化炭素を排出しないことから、本県の原子力発電所は、我が国の温室効果ガスの排出抑制に貢献しています。

本県の原子力発電所は約7,000万トン-CO₂の排出抑制に貢献しており、これは、国全体の温室効果ガス排出量（平成15年度）の約5.5%（全世界の排出量の約0.3%）に相当します。

※この抑制量は、本県で現在稼働している13基の原子力発電所の発電量相当分を石炭や石油の化石燃料で発電したとして算定したものです。

約7,000万トン-CO₂の抑制量は、本県の排出量の約7.5倍量に当たることから、本県は、原子力発電によって「CO₂マイナス県」とも言えるぐらい、地球温暖化防止に大きく貢献していることとなります。

特に、原子力で発電された電気の供給先である関西地域では、本県の原子力発電がなかった場合、関西地域全体の排出量（約1億8千万トン）を約40%も押し上げることになり、この抑制量（約7,000万トン）は、関西地域における全家庭から排出される温室効果ガスの約2.8倍に匹敵するものであり、関西地域での温室効果ガスの排出抑制に大きく寄与しています。

今後とも、安全・安心を最優先に、“**クリーンエネルギー先進県**”として、二酸化炭素を出さないエネルギーの確保に努め、地球温暖化防止に貢献していきます。